

よしきい

2019年9月29日



公園を群れ飛ぶハマシギ

目次

・公園の風景

- シギ/鴨 1
- 空からの訪問者Ⅱ 1
- Welcome サイクリスト! 1
- かつらハサギ 国際シンポジウム 1

・Sさん カエル池をつくる 2

・みんなのひろば

- クジラのお腹から…!! 2

・活動紹介

- クロツラヘラサギ環境整備隊? 3
- こども合唱隊 3
- ようこそ! 葦の会へ 3

発行:「葦の会」

編集:機関紙チーム

事務局:〒754-1277

山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030

FAX 0836-66-2031

～ 一緒にしませんか～

会員募集中! (高校生以上)

公園の風景

= シギ/鴨 =

我が公園の起動拠点であるビジターセンターの観察ホールから干潟を眺める。年間で最も鳥の少ない夏場でさえサギだけは何時でも目にすることが出来る。今この干潟に旅鳥のシギが飛来している。チドリ目シギ科、シベリアから北海道のエリアで繁殖・子育て後、冬を過ごすために東南アジアからオーストラリアへの旅の途中に訪れる。今年の公園への初飛来は7月初旬と聞く。



公園のソリハシシギと

アオアシシギ

互いに干渉しないのか、大きなサギのそばで小さくて細身なソリハシシギとアオアシシギが餌を捕まえている。ソリハシシギは反った5cm程のクチバシが特徴だ。このクチバシを含めても22~23cm程。アオアシシギはこれよりも一回り大きい、50~90cm程もあるサギとの差は相当なものだ。レンジャーの指導よろしく、2種のシギを見分けることが出来た。新米ウォッチャーとしては嬉しい限りだ。サギより種類の多さでは勝るシギ、公園への飛来履歴のあるものだけでも32種類となるそうだ。羽ばたき飛ぶ姿もしなやかで、群れ飛ぶ様は実に美しい。

= 空からの訪問者 II =

前号で取り上げた、渡りもせずに夏場の山口湾に留まった1羽のクロツラヘラサギのその後は？山口湾を一周する月一回のクロツラ調査によると、6月時点で4羽の残留が確認されたが、7~8月は1羽となってしまった。3羽はおそらく遅まきながら朝鮮半島へ飛び立って行ったのであろう。保護ケージを訪問しているのは残った1羽と思われる。8月1日よりクロツラケージの前の杭に止まり始め、今ではほぼ毎日ケージの屋根にやって来る。まだ若い鳥のようだ。

朝鮮大学から借り受けているケージ内の2羽は共に8歳と1歳半ほどの雌らしい。外見での雌雄の確認は難しいとのことである。見た目にも成鳥である8歳の方が大きい。ここでは仮称にて大きい方をLサイズのエルと呼ばせてもらおう。金網屋根の上に止まる訪問者に呼応するようにエルもケージ内をその足元に移動している。訪問者(visitor)は当然雄であろう。彼をブイと仮称させてもらおう。ケージ越しのエルちゃんとブイちゃんの2羽、この先いかに。

= Welcome サイクリスト！ =

皆さんお気づきですか？ビジターセンターエントランスの大きな円柱に貼られたサイクルエードのポスターに。サイクル県山口の観光スポーツ課の取り組みで、自転車ツーリングする方々への施設の提供のお知らせです。当公園も協賛施設として、トイレ・飲料・修理道具・空気入れ・案内を提供します。サイクリングに最適な季節を迎える今、サイクリストの訪園にWelcome！



= クロツラヘラサギ国際シンポジウム =

11月23/24日(土・日)宇部72アジススパホテルを会場として開催されます。韓国、北朝鮮、台湾、香港からの国際的な専門家の講演を聞き、クロツラヘラサギの生態を学習しませんか。葦の会も参加を予定しています。

Sさん カエル池を造る . . . その①

12年前義母から引き継いだ畑で作業をしていると、小さな茶色のカエルがピョンと出てきました。隣の田んぼで生まれたカエルが我が家の敷地にやってくるのです。よく見るとあちこちに。毎日見ていると愛着がわき、だんだんと可愛く思えてきました。



pixta.jp - 8087710



隣の田んぼは近所で唯一稲作が続けられていたものです。地主さんも高齢なので、私はいつまでカエルの産卵期の合唱が聞けるのかと心配していました。そして2年前、心配は現実となり、とうとう稲作をやめるということを地主さんから聞かされました。

そうすると、あのカエルたちはどうなるのだろう？ どこかに産卵する場所があるだろうか、と考えると私は心配で夜も眠れません。よし、それなら自分の家の空き地にカエル池を造ろう！と思いつきました。

(次号につづく)

みんなのひろば😊

クジラのお腹から . . . !!

古い映画を見ていたら、金もうけを企む登場人物が「これからはプラスチックだぜ。」と言っているシーンがありました。かつて夢の素材と呼ばれたプラスチックは今、地球の厄介物になってしまいました。海に浮かんで波にもまれ、日光にさらされ粉々になったマイクロプラスチックを魚が食べる、死んだクジラのお腹から80枚ものポリ袋が見つかる、などショッキングなニュースが聞こえてきます。

私の家の前には美しい周防灘が広がっていますが、浜には様々なゴミが日々流れ着きます。その主なものはペットボトルや菓子袋、砕けてバラバラになった古い牡蠣いかだ用のプラスチックパイプ、中でも発泡スチロールの箱は脆く、白い破片が無数に散らばっています。

この広い世界の、小さな島国の、ちっぽけな浜辺のゴミを拾っても拾っても、きりがなく何の解決にもなりません、ゴミが散乱した浜を見ると拾わずにはいられません。

自然に帰るまでには1,000年かかると言われるプラスチックですが、悪いのはプラスチックというより、ゴミの放置やポイ捨てをする人間なのですが。 (K)



活動紹介

= クロツラヘラサギ環境整備隊？ =

近ごろ環境サポートチームは上記タイトル名に改名？したかのような活動を続けています。

月一度の活動日、チーム以外の葦の会メンバーの参加も得、4月よりクロツラケージのある汽水性植物池の葦刈りからスタートしましたが、草木の成長の速さには追いつけず、月毎の作業はケージ周りにかかりきり。それでも汗拭きタオルを首に巻き、長靴装着で鎌を持つ手を振るいます。新たな企画も立ち上がりユンボなる機械のレンタル予定も。おやつタイムも設け、一同和気あいあいで楽しくやっています。活動予定表で日時をご確認の上是非ご参加下さい。

= こども合唱隊 =

夏休みも終了間近に開催されたレンジャークラブに参加した子供たちと保護者の了解を得、1年前に完成していた「クロツラヘラサギの歌」を歌っていただきました。最初は葦の会メンバーによる「老人？混声合唱隊」でイマイチ。可愛く元気な声を求めていたのです。1番だけだった歌詞も3番までに充実させ、子供たちの明るい声を録音しCDを作りました。



曲は1951年のNHKラジオ歌謡「森の水車」に替え歌として歌詞をのせたもので、当然子供たちは知る由もないメロディーですが子供たちの元気な声に「よかった よかった！」でした。

葦の会メンバーの男性2人が奏でる電子オルガンとギターを伴奏としての音入れでした。イベントなど折ある毎にみんなで歌いたいし、歌ってほしい♪♪

= ようこそ！葦の会へ =

公園では3月と9月の年2回、ボランティアを募っています。9月29日の説明会では参加者がレンジャーの案内のもと園内を散策したり、ビジターセンターで公園の歴史を聞いたりしました。更には4チームあるボランティア活動の様子を見学、その後公園スタッフや葦の会メンバーと交流しました。

今回2名の新会員を迎え、また休会中のメンバー1名も復帰することとなりました。メンバーが増えるのは何より嬉しいこと。ようこそ(^^)の気持ちでお迎えします。

<編集後記>

10年間掲載していた「公園をみる・観る」などのエッセイが100号発刊を機に終了となりました。ご愛読ありがとうございました。本紙101号より「みんなのひろば」コーナーを設けました。日々皆さんが思うこと、素晴らしい瞬間に出くわした時のことなど、紙面を皆さんと共に作っていきたく思います。是非お声をお寄せ下さい。(M)